

ダラスのワーキング女子ヘアーを！ ～JCWのマンスリーメッセージ～

学校教育もろもろ

先日、私の小学校3年生の娘の保護者面談がありました。2年生までは主に子供の学力向上などが面談の内容だったのですが、3年生になると少し変わってきます。今年の面談では、生徒が今学んでいることや今後もっと頑張りたいことだけでなく、なんとそれを生徒達がプレゼンするという話を聞きました。どうやら授業の一環として、自分の長所や短所、各科目ごとの目標などを各生徒が発表するそうなのです。しかも発表する内容は「もっと本が読めるようになる」などと言った漠然とした目標ではなく、「読書を通じて作者の意図している内容を把握する」など、とても具体的です。これって私が毎年会社で行う年次評価の際に、自分で次年度の目標を設定するのと似ていますよね。会社からもよく「具体的に達成可能な目標を設定しよう」と言われたりしますが、小学校3年生の段階で既にこんなことを学んでいるなんてビックリ！私が3年生の時は何を習っていたでしょう？掛け算・割り算のような基礎を習ったのは覚えていますが、具体的な目標を掲げてプレゼンしようなんて授業はなかった気がします。そもそもプレゼン資料だって、アメリカの大学へ留学するまで作ったこともありませんでした。プレゼンの資料を作るって難しいですよね？どうやってたら聞き手に簡潔に内容を伝えるか、私はいつも悩みます。職場でも、内容をわかりやすく伝えてくれる人と、そうでない人がいます。娘の小学校のようには、子供の頃からクリティカルシンキング（日本語だと「批判的思考」となってしまうので、ここはあえてカタカナで記載します）について練習する機会を与えるのはとてもいいですよ。ちなみにクリティカルシンキングとは、物事を論理的にとらえ、客観的な視点で分析して問題を解決する思考方法のことです。こ

れるのは、親としてもありがたいです。

保護者面談の際、先生は娘の自己評価チェックリストを見せてくれました。自身を客観的に見るのって難しいですよね。今できている点、できていない点、今後努力が必要な点などを洗い出すのは、大人でも難しいと思います。ある意味こつこつとした自己評価の作業は、ありのままの自分を受け入れる練習かなとも思いました。娘の自己評価チェックシートを見ると、彼女ができていたことの1つが「教室でいつも積極的に授業に臨んでいる」点とのこと。先生曰く、娘はどの生徒と一緒にグループになっても、仲良く実験したり、算数の問題を協力して解いたりしているそう。確かに娘は「私はどの子と一緒にグループになっても大丈夫。まずは相手に挨拶して、ちょっとおしゃべりするの」と言っていました。私と夫は「これって仕事でも同じだよ」とびびり。小学校の教室は、まるで職場の人間関係の練習場のようなのです。このような教育を受けていると、日本の「出る杭は打たれる」的な環境で育った場合と少し違った大人がでるあがるのではないのでしょうか。今の教育を継続していると、客観的に自己分析をして自己肯定感を高めるスキルを得られる大人になるような気がします。とは言いつつも、私の娘はまだ小学校3年生。これから恐怖の中学・高校生活があります。恐怖の理由は、いわゆる第2の反抗期。この時期、一部のティーンエイジャーの間では、自己肯定感が下がってしまうこともあるそうです。小学時代からコツコツと自己評価やクリティカルシンキングを学んでいた子供達は、中学・高校ではどのような育っていくのでしょうか。

さて、私の話に移りましょう。ある日会社で、リーダーシップ研修なるものがありました。そこで学んだのが「リーダーの特徴」。リーダーとは、物事を客観的に観察し分析して問題を解決できる人とのこと。そしてそのリーダーシップのスキルは一朝一夕で身につくものではなく、日々意識して習慣付けるのが重要だそうです。小学校の時からクリティカルシンキングや客観的な自己評価の方法について学び続けている人って、ある意味将来のリーダー候補なのでは？一言で「リーダー」と言っても、別にリーダーの役職

や肩書を持つてなくてもいいんです。会社で私は若い人達に、立場や肩書にはリーダーと付いてないかもしれない。でも皆が各々リーダーの特徴を生かして仕事を遂行していくのは大切なことだ、と伝えていきます。娘が今通っている公立学校を卒業した社員がうちの会社にも何かいるのですが、彼らは一様に自身を客観的に評価し、どのように行動したら最適なかを常に考えているように見受けられます。彼らの仕事振りを見ると、言われたこと以上のことをやりすぎず、かといって手を抜かず、周囲としっかりコミュニケーションを取りながら仕事を遂行しているからです。社内外の様々な方々からも、彼らは一緒に仕事がいやいやというコメントを頂いているので、娘も将来こんな社会人になるのかな？と期待しています。

今はアメリカに駐在中ですが、そろそろ帰国という方もいるかもしれません。現地校が性に合っているお子さんを持つご家族もいれば、早く日本に帰りたい！というお子さんもいるかと思われまふ。帰国後、公立の学校に行かせる方もいれば、私立やインターナショナルスクールを考えている方もいるかもしれません。インターナショナルスクールについて調べてみると、バカロレア教育というスイスのジュネーブに本部がある国際バカロレア機構（IB）が提供する教育プログラムを取り入れているスクールが日本各地にあります。バカロレア教育の特徴は、探求心や広い視野を持つ人物育成のため、様々な課外活動や特殊科目、リサーチ課題等を課していることで、対象年齢も3歳から19歳までと幅広いです。またバカロレア教育では「異なる信念、価値観、および経験に対して価値を見出し、異文化や学問領域を横断的に捉え協力することを学ぶ」ことで、基本的に2か国語以上を使って教育を受ける機会があるそうです。日本ではこのようなオプショ

ンもあるんですね。世界どこにいても子供の教育はこれからの未来を作るために欠かせないものだ、と、ひしひしと感じました。

プロフィール

JCW (Japanese Career Women)

2018年に発足した、ダラスに本拠地を置くNPO法人。ダラス、そしてアメリカ・日本・海外で働く日本人女性やワーキングマザー、学生達を応援し、ネットワークの場を提供するため、毎月様々なイベントを主催している。

メールアドレス: ajcwwomen@gmail.com
ウェブサイト: jcw-shines.org